

「アカマツ基金」へのご寄附の御願い

昭和初期、母校が一つ橋の地から国立への移転時、当時の佐野善作学長は武蔵野に多く残っていた雑木を払いアカマツを残し、更に東キャンパスに専門部が移転する際には、建物を建てるに先立ってアカマツ 300 本を移植されたとの伝説が残っています。武蔵野の里山を代表する樹木であったからでしょう。

その変遷を振り返りますと、昭和 40 年代初期には国立・小平キャンパス合わせて 2,000 本近くのアカマツがあったとの記述が見られます。

一方、大学としては米国からもたらされ長崎から全国に蔓延したマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウによる松枯れに対応するため、平成 4 年 2 月に国立 709 本、小平 80 本に対して 2 年間有効な活性剤を千数百万円かけて樹幹注入しました。

翻って、現在は国立 360 本、小平 23 本が確認されるのみですから、僅か半世紀の間に信じられないほど多くのアカマツが母校キャンパスから消えていったかが分かります。

平成 24 年に大学は蔓延する松枯れ問題に対処するべく、200 本ほどのアカマツの古木に対して、4 年間有効の薬剤樹幹注入を行いました。更に、平成 28 年度には 4 年が経過した対象木 99 本を中心に 260 万円かけて 7 年間有効の薬剤注入を行いました。引き続き平成 29 年度に 260 万円かけて 101 本に注入を実施しました。

この結果を踏まえて、植樹会は大学と協議し平成 29 年度から平成 33 年度までの「樹幹注入五ヵ年計画」を策定しました。対象アカマツは国立 360 本・小平 23 本の 383 本で、概算費用は 760 万円になります。

既に、計画初年度の平成 29 年度では 101 本（260 万円）が実施済みですので、今後の必要資金は 500 万円となります。

植樹会としましても、皆様からの年会費とご寄附から平成 28 年度 133 万円、平成 29 年度 50 万円の大学に対する支援を実施しております。

しかしながら、大学はご案内のとおり、国立大学法人化以降文科省からの交付金が年々定率で減額されており、財政的にも厳しい状況にあります。植樹会も昨年は入会される方より退会される方の方が多くなり、年会費収入も頭打ちで支援金の継続も困難な状況にあります。

このたび、今後 4 年間で必要となる資金 500 万円を目途として「アカマツ基金」を一橋大学・如水会・一橋植樹会の三者共同プロジェクトとして立ち上げることを、5 月 19 日に

行われた第45回一橋植樹会総会において宣言致しました。期間は2年間としております。

なお、既に本趣旨にご賛同頂いた如水会からは、先陣を切って今年2月に200万円のご寄付を頂きました。この大半は3月実施済みの樹幹注入に充当しました。この場をお借りして御礼申し上げます。

一橋の歌にも「武蔵野深き松風に・・・」とうたわれております。是非とも母校を愛する一橋大学卒業生・教職員・学生・関係者のご賛同を頂きたく御願い申し上げます。

以上、皆様のご理解とご支援を御願い申し上げます。

平成30年5月
一橋植樹会 会長 津田正道